

Lesson 02

実際に書いてみよう

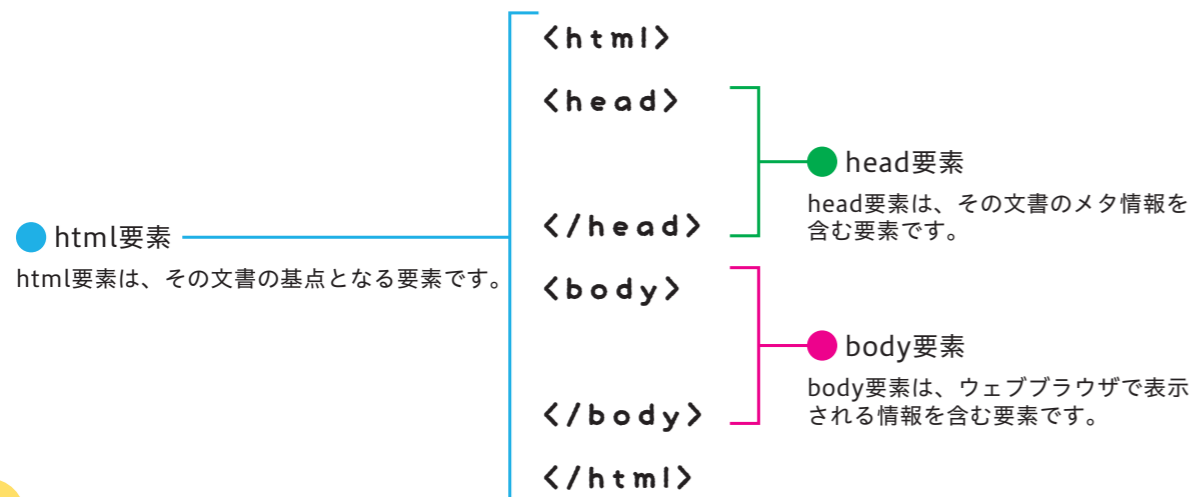
まずはhtml、head、bodyという3種類のタグを使って、ウェブページを構成する基本的な要素を作成します。

要素とは

HTML文書における要素とは、開始タグ、内容、終了タグをひとまとめにしたものを指します。たとえば**htmlタグ**は<html>や</html>を指し、**html要素**は<html>から</html>までのすべてを指します。文書全体をhtmlタグで囲むことで、「これはHTML文書です」ということを表します。headタグで囲まれたヘッダ情報エリア(head要素)には、その文書のタイトルや概要、著作

権に関する情報など、ページについてのメタ情報を記述します。また、デザイン情報が記述されたCSSファイルとの関連情報など、ウェブページとして公開するにあたって必要となるさまざまな情報を記述します。bodyタグで囲まれた本文エリア(body要素)には、ウェブブラウザで表示される情報(文章や画像など)を記述します。これらは、すべてのHTML文書で必要とされる要素です。

● 基本的な要素



1 <html>を入力する

HTML文書の始まりを示す<html>を、半角英数字で入力します①。「<」は、山括弧(アングルブラケット)と呼ばれ、**[Shift]**キーを押しながら、「<」と印字されているキーを押すと入力されます。

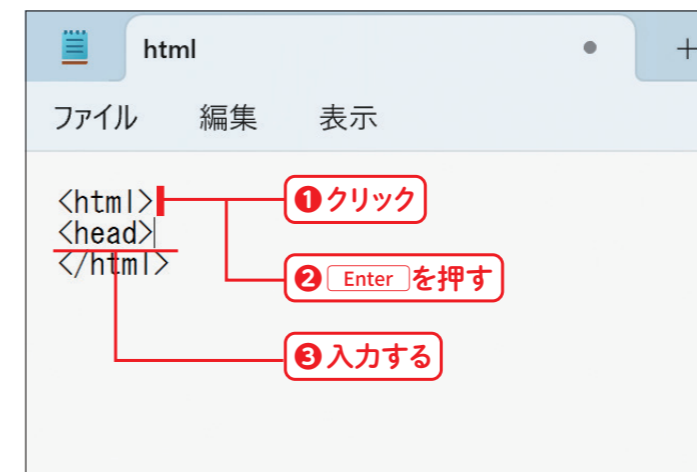


2 </html>を入力する

[Enter]キーを押して①、改行します。HTML文書の終わりを示す</html>を入力します②。

MEMO

終了タグは、先頭に「/」を入力するのを忘れないようにしましょう。



3 <head>を入力する

<html>の直後をクリックして①、**[Enter]**キーを押します②。ヘッダ情報エリアの始まりを示す<head>を入力します③。

MEMO

本書ではMacの**[return]**キーや**[enter]**キーも**[Enter]**キーと表記しています。

Lesson 03

ページタイトルを決めよう

ページタイトルはウェブページにとって重要な情報です。どんなことが書かれたページなのか、ひと目で内容がわかるようなタイトルを付けましょう。

ウェブページのタイトルとは

HTML文書で指定されたタイトルは、ウェブブラウザの**タブ**に表示されます。ウェブサイト作成用の専用ソフトなどでは、自動的に「無題ドキュメント」といったタイトルが割り当てられることがありますが、うっかり忘れてそのままにしておかないようにしましょう。

ユーザーが気に入ったページを**お気に入り**に登録すると、ページタイトルがそのまま記録されます。そのため、

たとえばお店のウェブサイト内のページタイトルが「ITEM」だと、後からお気に入りリストを見たときに、どこのお店の商品ページなのかがわかりません。**ITEM | 67Flower**のように、店名を| (バーティカルライン) でつないで記述するなどしておきましょう。また、長すぎるページタイトルはすべて表示されないことがあるので気を付けましょう。

●ウェブページのタイトル



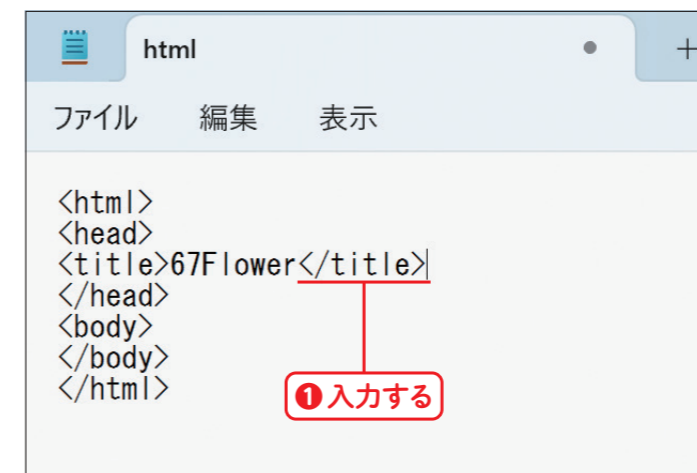
1 <title>を入力する

<head>の直後をクリックして**1**、**Enter** キーを押します**2**。ページタイトルの始まりを示す**<title>**を入力します**3**。



2 タイトルを書く

ページの内容にふさわしいページタイトルを記述します。ここでは、お店の名前をページタイトルにするために、**67Flower**と入力します**1**。



3 </title>を入力する

続けて、ページタイトルの終わりを示す**</title>**を入力します**1**。

Lesson 02

箇条書きを作成しよう

並列な情報は箇条書きにすることで読者にわかりやすく伝わります。ulタグやliタグを使って、箇条書きの範囲と箇条書きの項目をそれぞれ指定します。

ul要素とli要素について

箇条書きにしたい項目の前後をまとめてulタグで囲むと、その範囲が**箇条書き**として表されます。箇条書きにした項目は、1つずつliタグで囲みます。もし順番付きの

箇条書きを表現したいときには、ulタグの代わりにolタグで囲みましょう。

● 箇条書きの要素

67Flower

- TOP
- ITEM
- PRICE

MESSAGE

67Flowerはお花の専門店です。落ち着いた空間で、素敵なお花を探してください。 Copyright 2025 67Flower.

```
<ul>
  <li>TOP</li>
  <li>ITEM</li>
  <li>PRICE</li>
</ul>
```

リストを作成するタグ

リストの項目を作成するタグ

```
<meta name="author" content="67Flower">
<meta name="description" content="渋谷区にあるお花の専門店">
<title>67Flower</title>
</head>
<body>
<h1>67Flower</h1>
<ul>
TOP
ITEM
PRICE
</ul>
<h2>MESSAGE</h2>
67Flowerはお花の専門店です。
落ち着いた空間で、素敵なお花を探してください。
Copyright 2025 67Flower.
```

① 入力する

② 入力する

```
<meta charset="utf-8">
<meta name="author" content="67Flower">
<meta name="description" content="渋谷区にあるお花の専門店">
<title>67Flower</title>
<h1>67Flower</h1>
<ul>
<li>TOP</li>
<li>ITEM</li>
<li>PRICE</li>
</ul>
<h2>MESSAGE</h2>
67Flowerはお花の専門店です。
落ち着いた空間で、素敵なお花を探してください。
```

① 入力する

② 入力する

③ 入力する

67Flower

- TOP
- ITEM
- PRICE

MESSAGE

67Flowerはお花の専門店です。落ち着いた空間で、素敵なお花を探してください。 Copyright 2025 67Flower.

箇条書きが追加された

① クリック

1 ulタグを入力する

ナビゲーションの1つ目の項目にあたる「TOP」の上の行にを入力して①、最終項目「PRICE」の下の行にを入力します②。

2 liタグを入力する

「TOP」の直前にを入力して①、「TOP」の直後にを入力します②。「ITEM」「PRICE」の前後にも同様にとをそれぞれ入力します③。

3 確認する

メモ帳の[ファイル]メニュー→[保存]の順にクリックしてファイルを上書き保存し、Google Chromeの更新ボタンをクリックします①。3項目の箇条書きが追加されていることを確認します。

Lesson 02

説明リストを作成しよう

説明リストはウェブページを作る際に汎用性の高い要素です。「キーワードと、その補足情報」「写真と、それに添える一言」のように、対になった情報を表すときに積極的に利用しましょう。

dl、dt、dd要素とは

dlタグで囲まれた部分は、その部分が「説明リスト」であることを表します。たとえば「商品名」に対して、それを説明するための「商品写真」や「商品紹介文」のセットを表したいときに、「商品名」をdtタグ、「商品写真」「商品

紹介文」をddタグで囲みます。

dtタグで囲むのは文字だけではありません。イラスト=dt要素、イラストの説明文=dd要素にするなど、いろいろな場面で使うことができます。

● 説明リストを作成する要素

67Flower

- TOP
- ITEM
- PRICE

ITEM

アレンジメント
アレンジメントの写真
オシャレな花器で華やかに。

ブーケ
ブーケの写真
オーダーに合わせて作ります。

ポット
ポットの写真
サイズは2種類から選べます。

説明リストを作成するタグ

「説明される用語や画像」を作成するタグ

「用語や画像に対する説明」を作成するタグ

```

<dl>
  <dt>アレンジメント</dt>
  <dd>アレンジメントの写真</dd>
  <dd>オシャレな花器で華やかに。</dd>
</dl>

```

```

</ul>
</nav>
<main>
  ①入力する
  <h2>ITEM</h2>
  <dl>
    アレンジメント
    アレンジメントの写真
    オシャレな花器で華やかに。
  </dl>
  ②入力する
  ブーケ
  ブーケの写真
  オーダーに合わせて作ります。
  ポット
  ポットの写真
  サイズは2種類から選べます。

```

```

</ul>
</nav>
<main>
  <section>
    <h2>ITEM</h2>
    <dl>
      <dt>アレンジメント</dt>
      アレンジメントの写真
      オシャレな花器で華やかに。
    ①入力する ②入力する
    ブーケの写真
    オーダーに合わせて作ります。
    ポット
    ポットの写真
    サイズは2種類から選べます。

```

```

</ul>
</nav>
<main>
  <section>
    <h2>ITEM</h2>
    <dl>
      <dt>アレンジメント</dt>
      <dd>アレンジメントの写真</dd>
      オシャレな花器で華やかに。
    </dl>
    ①入力する ②入力する
    ブーケの写真
    オーダーに合わせて作ります。
    ポット
    ポットの写真
    サイズは2種類から選べます。

```

1 dlタグを入力する

item.htmlファイルを編集します。「アレンジメント」の上の行に説明リストの始まりを示す<dl>を入力し①、「オシャレな花器で華やかに。」の下の行に、説明リストの終わりを示す</dl>を入力します②。

2 dtタグを入力する

「アレンジメント」の直前に<dt>を入力し①、直後に</dt>を入力します②。「アレンジメント」が説明される用語として表されました。

3 ddタグを入力する①

「アレンジメントの写真」の直前に<dd>を入力し①、直後に</dd>を入力します②。

Lesson 03

表組を作成しよう

表組のマス目(セル)や、行ごとのまとまりを表すためには、それぞれ異なるタグを付ける必要があります。ちょっと複雑ですが、落ち着いて作業しましょう。

table、tr、th、td 要素とは

tableタグで囲まれた部分は、それが1つの表組であることを表します。tdタグで囲まれた部分は表組のデータセル(マス)です。見出しのセルはtdではなくthタグで囲みます。いくつかのtd(th)要素をtrタグで囲むことで、

それらのtd(th)要素が1行の中に並んでいることを表します。ここでは、2列×4行の表組を作成したうえで、商品名を「見出しのセル」として表します。

● 表を作成する要素

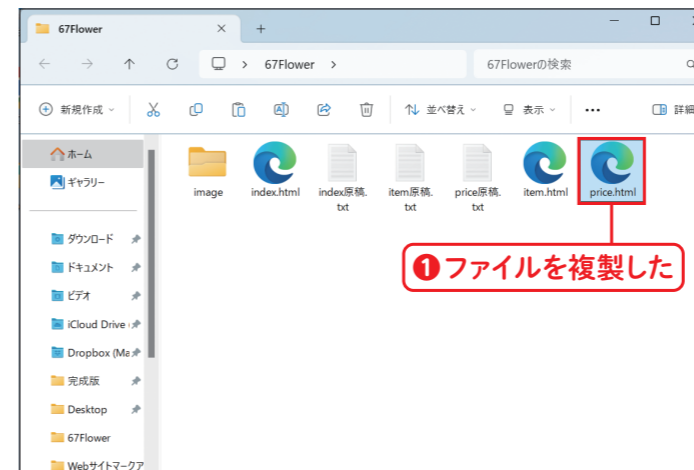
The screenshot shows the 67Flower website with a table of prices. Red annotations highlight the HTML tags used to create the table structure:

- 表を作成するタグ** (Tag to create the table): `<table>`
- 見出しを作成するタグ** (Tag to create the header): `<th>`
- 行を作成するタグ** (Tag to create a row): `<tr>`
- セルを作成するタグ** (Tag to create a cell): `<td>`

The table content is as follows:

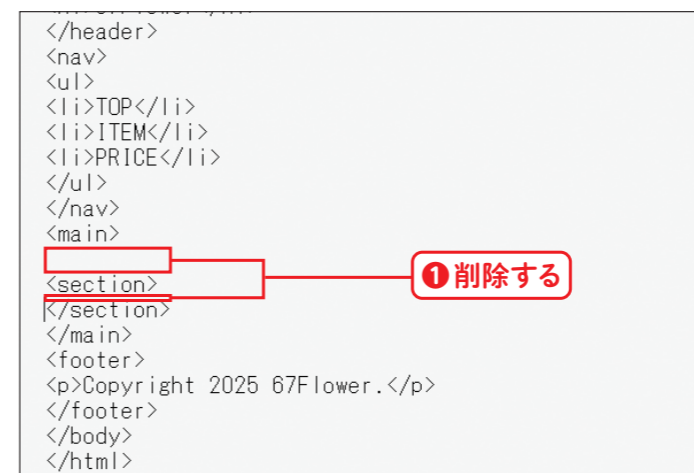
商品名	価格
アレンジメント	4,980円から
ブーケ	2,500円から
ポット	大: 700円 小: 500円

Copyright 2025 67Flower.



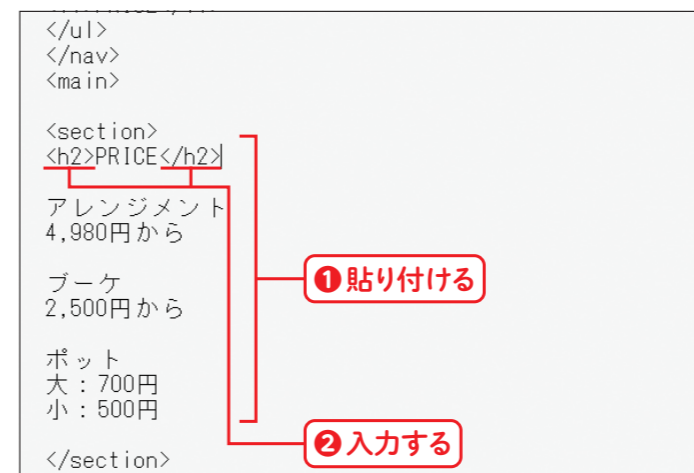
1 price.htmlを作成する

P.70手順①～P.71手順④を参考にしてindex.htmlを複製し、ファイル名を「price.html」に変更します①。



2 不要な箇所を削除する

P.71手順⑤～P.72手順⑦を参考に、メモ帳(Macの場合はテキストエディット)でprice.htmlを開きます。「<p></p>」と、本文(section要素の内容)を削除します①。



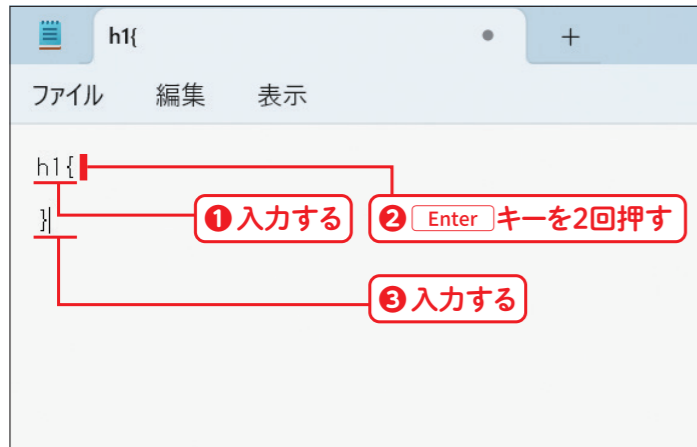
3 原稿をコピーする

P.72手順⑧～P.73手順⑩を参考にして、price原稿.txtファイルの内容をコピーして貼り付け①、h2タグを入力します②。

Lesson 03

テキストの色を指定しよう

テキストの色は、カラーコードや色名で指定できます。デザインのために色を付けることもあれば、目立たせたい箇所に色を付けることもあります。



1 セレクタを入力する

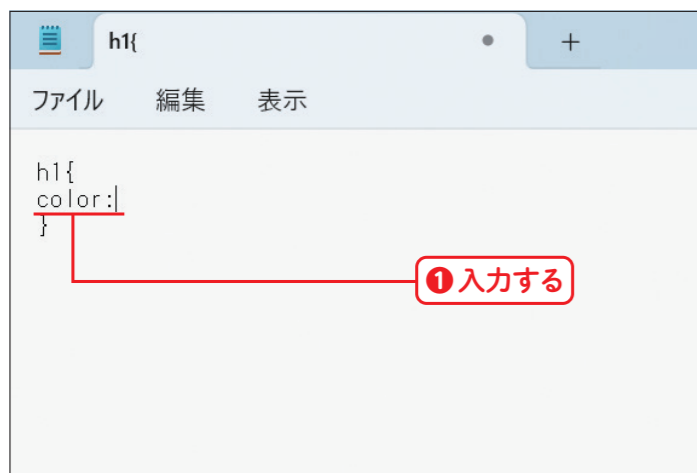
P.28を参考にメモ帳を起動し、新規ファイルを作成します。h1に続けて{を入力し①、Enterキーを2回押します②。続けて}を入力します③。

MEMO

Enterキーによる改行は必須ではありませんが、こうしておくともコードが見やすくなります。

2 colorプロパティを入力する

h1{の下の方に、テキストの色を指定するためのcolorと:(半角コロン)を入力します①。



3 値を入力する

color:の直後にgreenと;(半角セミコロン)を入力します①。ページで一番大きな見出しにあたるh1要素のテキストの色が緑色になります。



CHECK

CSSで色を指定する

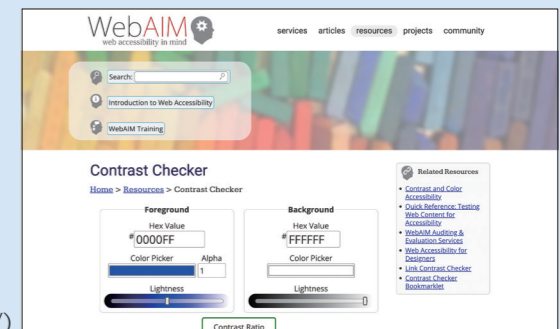
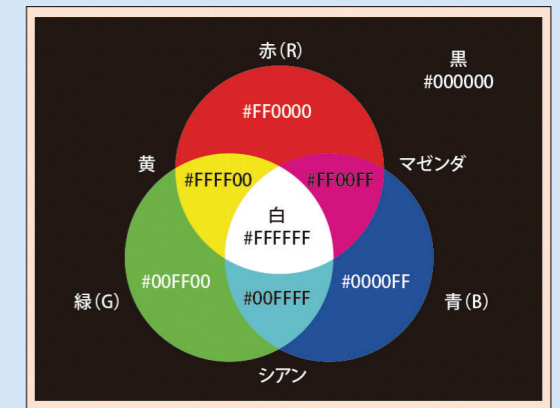
● 色の表現方法

色の表現方法には、greenやredのように色の名前で表す方法とカラーコードで表す方法がありますが、カラーコードのほうが色名よりも多くの色を指定できます。カラーコードは、3桁もしくは6桁の16進数で指定します。数値は左からR(赤)、G(緑)、B(青)の順に並んでおり、3色の組み合わせによって色が決まります(光の三原色)。RGBによる色指定は、3色のスポットライトで1箇所を照らすイメージです。値が小さいとライトの光量が減り、値が大きくと光量が増えると考えてください。つまり、3色とも数値が低い(#000000)と表示される色は黒になり、数値が高い(#FFFFFF)と白になります。

● 配色のときに気をつけたいポイント

テキストの色が背景の色になじみすぎていると、テキストが読みづらくなる可能性があります。テキストと背景の色に適度なコントラストを確保しましょう。「WebAIM: Contrast Checker」は、サイトにアクセスしてカラーピッカー機能を使うと簡単にコントラストをチェックできます。他にもいろいろなチェックツールがあるので、使いやすいものを探してみてください。

▶ WebAIM: Contrast Checker
(<https://webaim.org/resources/contrastchecker/>)



Lesson 07

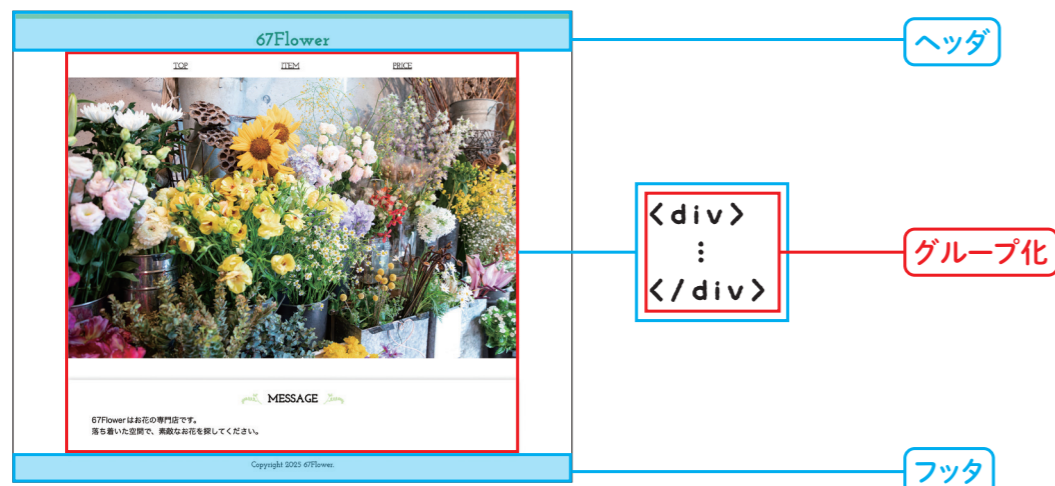
デザインに合わせて グループ化しよう

いくつかの要素をまとめてグループ化しておくと、個別の要素だけでなくグループ全体に対してスタイルを指定できます。

デザイン上のグループを探す

CSSによるレイアウト作業を始める前に、まずは完成図をよく見て、デザイン上のグループを探しましょう。同じ背景色で塗られている箇所、他と切り離されたように見えるエリアなどがあれば、それぞれ独立したグループと見なします。グループが見つかったら、グループごとにdivタグで囲みます。divタグは他のタグと異なり、それ自体で意味を与えることができません。**div = 複数の要**

● グループ化する要素



素をグループ化するためのタグと覚えておいてください。では「67Flower」のページの中でデザイン上のグループを探してみましょう。ヘッダとフッタは横幅いっぱいを使って表示されていますが、ページの中央部分は赤枠の中に収まっていますね。赤枠部分をグループ化してCSSで幅を固定したいので、divタグで囲みましょう。

```
<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
<meta charset="utf-8">
<meta name="author" content="67Flower">
<meta name="description" content="渋谷区にあるお花の専門店">
<title>67Flower</title>
<link href="style.css" rel="stylesheet">
</head>
<body>
<header>
<h1>67Flower</h1>
</header>
<div class="content">
<nav>
<ul>
<li><a href="index.html">TOP</a></li>
<li><a href="item.html">ITEM</a></li>
<li><a href="price.html">PRICE</a></li>
</ul>
</nav>
<main>
<p></p>
<section>
<h2>MESSAGE</h2>
```

① Enter キーを押す

② 入力する

```
<li><a href="index.html">TOP</a></li>
<li><a href="item.html">ITEM</a></li>
<li><a href="price.html">PRICE</a></li>
</ul>
</nav>
<main>
<p></p>
<section>
<h2>MESSAGE</h2>
<p>67Flowerはお花の専門店です。<br>
落ち着いた空間で、素敵なお花を探してください。</p>
</section>
</main>
</div>
<footer>
<p>Copyright 2025 67Flower.</p>
</footer>
</body>
</html>
```

① Enter キーを押す

② 入力する

1 <div class="content">を入力する

index.html ファイルをメモ帳 (Mac の場合はテキストエディット) で開きます。</header> の直後をクリックして Enter キーを押し、①、<div class="content"> を入力します②。

MEMO

「content」は CSS コーディングの際に class セクタとして利用します (class セクタについては P.94 参照)。

2 </div>を入力する

</main> の直後をクリックして Enter キーを押し、①、</div> を入力します②。[ファイル] メニュー → [保存] の順にクリックして、ファイルを上書き保存しておきます。item.html と price.html も、同様に div タグを追加します。

CHECK

グループ化

「ヘッダ」や「フッタ」といった、HTML の仕様書で役割が定義されているグループではなく、単に「見た目」のグループをまとめたいときには div タグを使いましょう。グループごとに異なるデザインを適用したいときには、class または id 属性でグループ名を付けます。

枠線が付いて、左に配置されるグループ

文字サイズが大きく、右に配置されるグループ



Lesson 02

箇条書きの記号を非表示にしよう

箇条書きの各項目の先頭には、初期状態では黒い丸印(ビュレット)が表示されています。この記号の形状を変更したり、記号そのものを非表示にすることが可能です。

```
h1{
color:green;
font-size:250%;
}
.content{
width:960px;
margin-right:auto;
margin-left:auto;
}
img{
max-width:100%;
}
li{
}
}
```

① 入力する
② Enter キーを2回押す
③ 入力する

```
h1{
color:green;
font-size:250%;
}
.content{
width:960px;
margin-right:auto;
margin-left:auto;
}
img{
max-width:100%;
}
li{
list-style:none;
}
}
```

① 入力する

1 セレクタを入力する

ナビゲーションメニューの先頭に付いている丸印(ビュレット)を非表示にします。CSSの最終行にli要素を指すためのli{を入力し①、Enter キーを2回押します②。続けて}を入力します③。

2 list-style プロパティと値を入力する

li{の下の行にlist-style:none;を入力します①。list-styleは、箇条書きの項目の先頭に付く記号を指定するためのプロパティです。値にnoneを指定することで、記号が非表示になります。



3 確認する

[ファイル]メニュー→[保存]の順にクリックしてファイルを上書き保存し、Google Chromeの更新ボタンをクリックします。ビュレットが消えていることを確認できます。

CHECK

list-style プロパティ

list-style プロパティの値にはいくつかの種類があります。箇条書きの項目の先頭に付く記号をCSSで指定することにより、HTML文書の中にテキストとして記号を記述する必要がなくなります。特に連番は(HTML文書に書き込むのではなく)CSSで指定しておくことで、項目の順序を入れ替えたり、項目を削除した際にも、自動的に番号が振り直されるため効率的にページを管理できます。

値	意味
none	ビュレットなし
disc	黒い丸 (ul liの初期値)
circle	白い丸
square	黒い四角
decimal	数字 (ol liの初期値)
lower-roman	ローマ数字 (小文字)
upper-roman	ローマ数字 (大文字)
lower-alpha	アルファベット (小文字)
upper-alpha	アルファベット (大文字)
hiragana	ひらがな
katakana	カタカナ

• disc1 • disc2 • disc3	○ circle1 ○ circle2 ○ circle3	▪ square1 ▪ square2 ▪ square3
1. decimal1 2. decimal2 3. decimal3	i. lower-roman1 ii. lower-roman2 iii. lower-roman3	I. upper-roman1 II. upper-roman2 III. upper-roman3
a. lower-alpha1 b. lower-alpha2 c. lower-alpha3	A. upper-alpha1 B. upper-alpha2 C. upper-alpha3	あ、hiragana1 い、hiragana2 う、hiragana3
ア、katakana1 イ、katakana2 ウ、katakana3		

Lesson 03

ウェブフォントを利用しよう

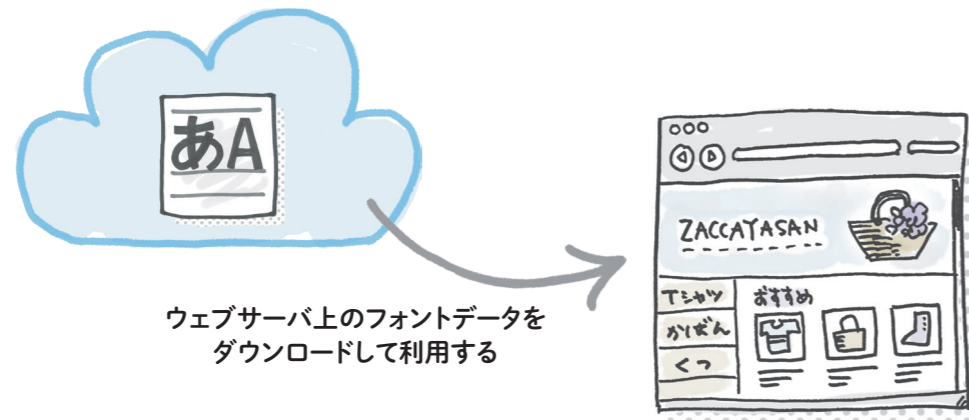
「ウェブフォント」のしくみを利用すると、閲覧環境に関係なく任意の書体でテキストを表示できます。見出しなどで利用することで、印象的な表現が可能になります。

ウェブフォントとは

私たちが「文字」として目にしているのは、利用中のデバイスにインストールされた「フォント」と呼ばれる書体データです。Windows、Mac、iPhoneやAndroidスマートフォンなど、閲覧環境によってインストールされているフォントが異なるため、「希望どおりの書体を使うことができない」というのがかつての常識でした。しかし近年のウェブブラウザはウェブフォントに対応しているため、ある程度までは、希望のフォントで表示することが可能で

す。ウェブフォントはウェブサーバ上に置かれたフォントデータを利用するしくみなので、ユーザーの閲覧環境に左右されません。なお、本書では、Googleが提供する無料のウェブフォントサービス「Google Fonts」を利用します。サービスは日々アップデートされているため、次ページ以降で紹介する画面と実際の画面が異なる可能性があります。作業の流れに大きな違いはないものと思われます。

● ウェブフォントのしくみ

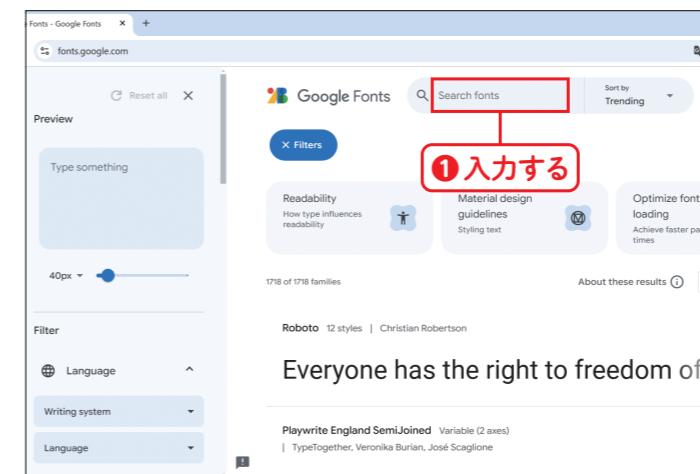


ウェブサーバ上のフォントデータをダウンロードして利用する



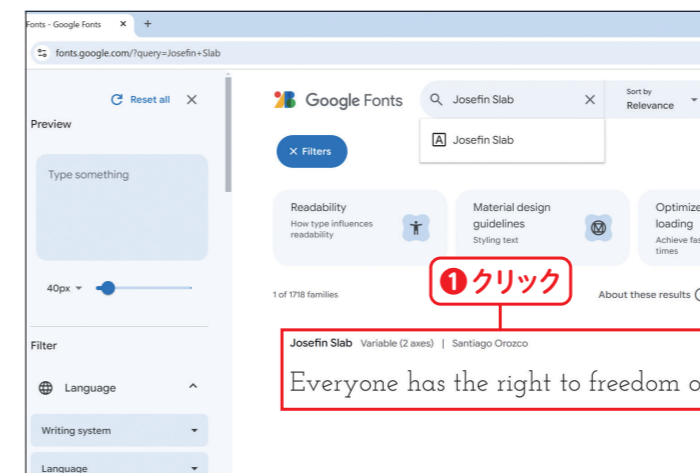
1 Google Fontsを開く

Google Chromeを起動して、アドレスバーにhttps://fonts.google.comを入力します①。



2 フォントを検索する

「Google Fonts」のページが表示されます。「Search fonts」欄にフォント名「Josefin Slab」を入力します①。



3 「Josefin Slab」ページを開く

検索結果の「Josefin Slab」をクリックし①、詳細ページを開きます。

Lesson 01

モバイル対応しよう

ここまでは大きな画面で閲覧することを前提としたウェブページの制作を進めてきましたが、最後にひと手間かけて、スマートフォンや小さめのタブレットなどのモバイル端末にも対応しましょう。

モバイル対応とは

ウェブサイトの多くは、主にスマートフォンやタブレットで閲覧されます。しかし制作作業はパソコン上で行われるため、まずはパソコンの画面でバランス良く表示されるページを作成し、もしモバイル端末の小さな画面で表

示したときに不具合が起こるようなら最後に調整するのが一般的な流れです。モバイル対応のポイントは、以下の2つです。

●ビューポート (viewport) の設定

ビューポート=表示領域の設定をしないままだと、スマートフォンはPC用の大きなウェブページを縮小して表示しようとします。HTMLに以下のコードを追加しておく、「テキストが小さすぎて読めない」といった事態を防ぐことができます。

```
<meta_name="viewport" _content="width=device-width, _initial-scale=1.0">
```

端末にあらかじめ設定されたビューポート幅に準じる

ページを最初に読み込んだときの表示倍率を「1.0」にする(拡大も縮小もしない)

●CSSの切り替え

大きな画面用のCSSとは別に小さな画面用のCSSを用意して、画面サイズに合わせてCSSを切り替えます。大きな画面で横並びに配置している要素を小さな画面では縦並びにするなど、画面サイズによってレイアウトを変更することで、どんな端末でも見やすいウェブページを提供できます。

```
index.html
ファイル 編集 表示
<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
<meta charset="utf-8">
<meta name="author" content="67Flower">
<meta name="description" content="渋谷区にあるお花の専門店">
<meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1.0">
<title>67Flower</title>
<link href="style.css" rel="stylesheet">
<link rel="preconnect" href="https://fonts.googleapis.com">
<link rel="preconnect" href="https://fonts.gstatic.com" crossorigin>
<link href="https://fonts.googleapis.com/css2?family=Josefin+Slab:ital,weight@</head>
<body>
<header>
<h1>67Flower</h1>
</header>
<div class="content">
<nav>
<ul>
<li><a href="index.html">TOP</a></li>
<li><a href="item.html">ITEM</a></li>
```

① 入力する

② Enter キーを押す

```
style.css
ファイル 編集 表示
h1{
color:green;
font-size:250%;
}
.content{
width:960px;
margin-right:auto;
margin-left:auto;
}
img{
max-width:100%;
}
```

.contentセレクト

```
style.css
ファイル 編集 表示
h1{
color:green;
font-size:250%;
}
.content{
max-width:960px;
margin-right:auto;
margin-left:auto;
}
img{
max-width:100%;
}
```

① 変更する

1 viewportを設定する

P.40～41を参考にindex.htmlをメモ帳(Macの場合はテキストエディット)で開きます。<title>67Flower</title>の直前をクリックして<meta_name="viewport" _content="width=device-width, _initial-scale=1.0">を入力し①、[Enter]キーを押します②。[ファイル]メニュー→[保存]の順にクリックして、ファイルを上書き保存します。

2 .contentセレクトを探す

P.111を参考にstyle.cssをメモ帳(Macの場合はテキストエディット)で開きます。.contentに適用されているスタイルを変更したいので、すでに記述済みの.contentセレクトを探します。

3 プロパティを変更する

width:960px;のプロパティをwidthからmax-widthに変更し①、ファイルを上書き保存します。max-widthは、幅の最大値を指定するためのプロパティです。プロパティを変更することにより、ウェブブラウザの幅が960px以下になった場合には.contentの幅が自動的に縮小されるようになります。